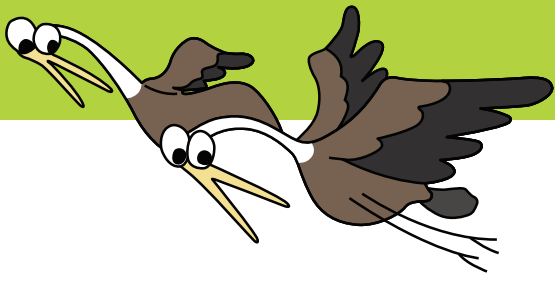


「ツルの里づくり」で地域を元気に!

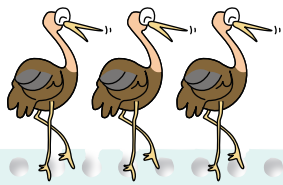
四万十つるの里づくりの会



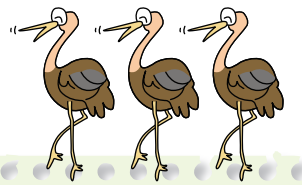
かつての四万十川・中筋川^{なかすじ}流域には、田んぼや湿地がたくさんあり、自然が豊かで、冬場にはたくさんのツルがおとずれ、越冬していました。しかし、私たちの生活が便利になった反面、自然が壊され、ツルが安心して過ごせる場所が減っています。

現在、日本で越冬するツルの大半は鹿児島県出水市^{いずみ}に集中しています。特に、ナベヅルについては、世界中の生息数の約8割が飛来しているといわれ、狭い地域に集中しているため、伝染病が発生すると一気に絶滅してしまう恐れがあります。そこで、平成13(2001)年から国をあげて越冬地の分散化計画が進められ、四万十市(当時 中村市)もその有力な候補地となっています。

四万十つるの里づくりの会では、地域のみなさんの協力を得て、ツルが安心して過ごせる里山環境づくりを進め、それによって地域の活性化を図っていくことをめざしています。



四万十つるの里づくりの会の取り組み



えさ場・ねぐらづくり



休耕田の草刈り

休耕田を借り上げ、草を刈ってツルが降りやすい空間をつくったり、モミ撒きなどをして、十分に餌をとり、越冬できる場所を整えています。



子どもたちと一緒にいるモミ撒き

ワークショップなどの開催

地域のみなさんとともに、ツルや鳥類保護による地域づくりの先進事例などを学んでいます。



ワークショップの様子

ツルの飛来状況や行動の調査

鳥類の専門家や地域のみなさんの協力を得て、ツルの飛来数や行動などを記録しています。



四万十川で水浴びをしているナベヅル

PR・啓発活動

地元の子どもたちを対象とした環境教育や会報・ホームページ等を通じて、ツル保護活動の重要性の啓発、当会の活動紹介などを行っています。



ツルの自然体験学習会(7月・11月頃)



会報「四万十つるの里づくり」



ホームページも充実!!

<http://www.shimanto-tsuru.com/>

四万十つるの里づくりの会の活動経過をフレッシュな状態で皆様にご紹介しています。

